レコード再発見プロジェクト第2弾 “Made In Japan”で愉しむレコードの音色

～東洋化成末広工場見学～

8月31日　横浜市鶴見区

右から，東洋化成の石丸仁氏，ナガオカの寺村博氏，ゲストの土岐麻子氏，パナソニックの志波正之氏

レコードプレーヤーのテクニクス，カートリッジのナガオカ，レコード製造の東洋化成の３社によるコラボプロジェクト「レコード再発見プロジェクト」が４月に発足し，その第２弾イベントが８月末に開催された．

今回はテクニクスSL-1200Gの発売日である９月９日を間近に控え，３社の担当者と歌手の土岐麻子さんによるトークイベント，工場見学が開催された．

テクニクスはパナソニックの志波正之氏がSL-1200Gの商品説明と開発の苦労話，ナガオカからは技術アドバイザーの寺村博氏が，MMカートリッジMP-500を解説，そして東洋化成からはレコード事業部部長の石丸仁氏が，品質管理について説明してくださった．

次にゲストの土岐麻子さんが登壇すると，最新LP『Bittersweet』から，このイベントのために「Beatiful Day／ラブソング」をシングルカットしたEPを，SL-1200GとMP-500を使用して再生した．

その後，お待ちかねの工場見学が開催され，数名のグループに分かれて順次，カッティングルームとプレス工場を見学した．

カッティングルームでは手塚和巳氏の案内で，機材とカッティングのプロセスの説明を受け，実際に音源からラッカー盤にカッティング，再生までの作業が披露された．

ラッカー盤のカッティングと再生は，普段なかなか接することのできない貴重な体験で，再生されたサウンドは瑞々しく，元の音源と寸分違わないと言っても過言ではないほどだった．

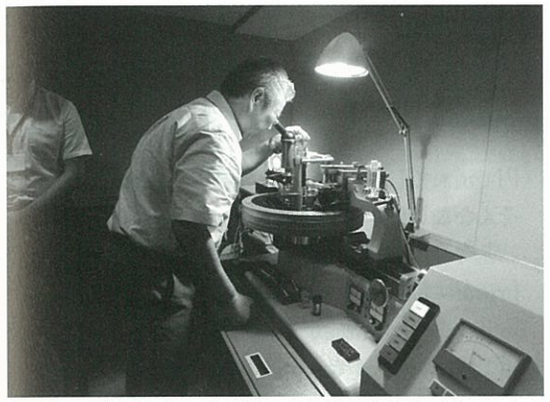
続いてプレス工場に案内され，石丸仁氏がプレス工程を説明してくださった．プレス機はスウェーデン製で，40年以上前に製造されたもの．メンテナンスは自分たちで行っている．日本で稼働中なのはここだけで，アジア圏のレコード生産を一手に引き受けているのだ．

テクニクスSL-1200Gを使用して，この日のためにEP化された「Beatiful Day／ラブソング」を再生する土岐麻子さん

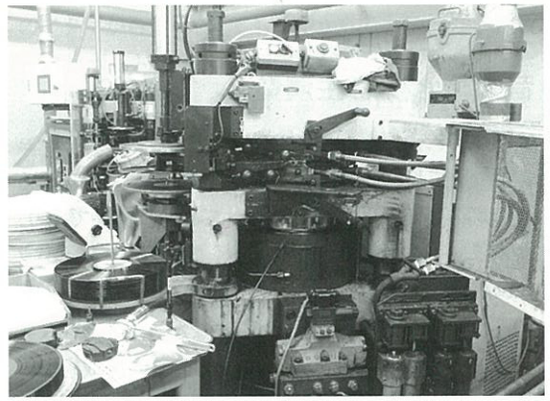
イベント会場内に展示されたレコードの原盤と製品．450万枚以上のヒットとなった日本一のEP盤「およげ！たいやきくん」もここで生産された

カッティングルームで調整卓の役割を説明する手塚和巳氏．素材はアナログでもデジタルでも対応可能

1970年代に製造されたノイマンのカッティングシステムVMS70を使用．モーターはデンオン製ACサーボDDに交換されている



ラッカー盤にカッティングされた音溝を顕微鏡でチェックする手塚氏．見学者も顕微鏡をのぞき，その精緻な音溝のようすに感激していた



レコード盤プレス機も1970年代の製造で，LP盤用とEP盤用が用意されている．でき上がったレコード盤がどんどん積み上がっていく

プレスしてすぐにレコード盤の外周バリ取りが自動で行われる．プレスしてすぐのバリはまだ温かく軟らかい．バリは材料としてリサイクルする

プレス工場の棚に並んだプレス原盤．メーカーごとに整理され，再プレスに備えている

プレス原盤をプレス機にセットし，樹脂の塊を，レーベル紙２枚にはさんで入れ，加熱しつつ油圧でプレスし，冷却水の循環で金型を急速冷却するとレコードができあがり，周囲のバリを自動でカットし，完成となる．レーベル紙は糊付けではなく，圧力で樹脂に食い込んでいるとのこと．

周囲には製造中の著名アーティストの作品もあって興味深々だが，ご内密にとのことだった．

このイベントは午前と午後の２部構成で，数百人が参加したものと想像される．オーディオ誌のみならず一般誌や新聞社の参加もあって，アナログオーディオの人気の高さを再認識した．　（編集部）